STROKE LAB / CLINICAL NOTE

SLTA｜実施条件と結果

正規用具・マニュアルで実施、採点した結果を転記します。
本票は独自の記録補助票で、正式な図版・問題・採点表を収録していません。

対象者ID：_____　実施者：_____　年齢：_____歳

発症日：_____　実施日（複数日はすべて）：_____

利き手／使用手：_____　普段の言語・読み書き：_____

実施条件｜覚醒・疲労・聞こえ・視野・眼鏡・補聴器・麻痺

開始／終了：_____　休憩・分割：_____

使用マニュアルの版・刷：_____　正誤表確認日：_____

領域	正規プロフィールからの要約／未実施と理由
聴く	
話す	
読む	
書く	
計算	

総合評価尺度を算出した場合のみ
A 書字 ____/4 ＋ B 発話 ____/3 ＋ C 理解 ____/3 ＝ ____/10
採点確認者：_____ 算出保留の理由：_____

26項目の単純合計ではありません。研究の素点合計とは分けて記録します。
未実施を自動で0点にせず、正規の採点規則を確認してください。

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

SLTA｜反応の違いを読む

点数に加え、実際の発話、指差し、自己修正、ヒント前後の反応を残します。
規定外の補助を試した場合は、標準条件の成績と分けて記録します。

対象者ID：_____　記録日：_____

項目番号／課題	最初の反応・逐語記録	規定のヒント後／備考

1｜課題間の違い（聴理解と読解／呼称と復唱／音読と意味理解など）

2｜言語以外の影響と、追加して確認すること

3｜生活で使えそうな手段と、試した条件

標準検査後の追加観察：実物 ／ 絵・写真 ／ 文字 ／ 身振り ／ その他
本人の反応・必要だった援助：

STROKE LAB / CLINICAL NOTE

SLTA｜生活目標と再評価

検査成績と、実際に伝わった行動を並べます。
記録例：「朝食時、飲みたいものを本人から伝える」。

対象者ID：_____　支援開始日：_____

生活目標｜いつ・誰に・何を・どう伝えるか

試す支援｜短い言葉・選択肢・文字・写真・待ち時間など

日付／場面	伝わった回数／機会	援助・反応・修復の様子

援助の記録例：自発 ／ 質問後 ／ 選択肢提示後 ／ その他の援助 ／ 代行
検査の得点とは別の生活記録です。「機会なし」と「伝わらなかった」を分けます。

次回確認日：_____　条件の変更：_____

振り返り 本人の希望が伝わったか／援助量は減ったか／別の相手でも使えるか
SLTAの変化：_____ 生活での変化：_____

参考：日本高次脳機能学会 SLTA案内／長谷川ほか（1984）／森岡ほか（2013）
作成：STROKE LAB 2026.10.27｜正規検査と併用する独自様式